



# 1月の 亥 だより

令和8年1月5日

目黒区立目黒本町保育園園長

あけましておめでとうございます。

爽やかな新年が始まりました。久しぶりに会った子どもたちの会話も弾み、長い休みをご家族の方と楽しく過ごしてきたことが伺え、嬉しい気持ちになります。寒々しかった園舎が一気に暖かくなり、子どもの笑顔があつてこその保育園だということを実感します。

先月の冬至の日、各クラスに栄養士が柚子を持っていき、冬至の話をしました。「ん」のつく物を食べると「運を呼び込む」という話に興味を持った5歳児クラスの子どもたちは目の前のかぼちゃの煮物を見て「ん」がつかないことに気が付くと「違う名前もあるかも」と色々なことを言い合いながらかぼちゃに“なんきん”という名があることを突き止めていました。4歳児クラスは「夜が一番長い」という説明に「夜が長いのが好き」と言い始めたので理由を聞くと口々に家で過ごす楽しみなことを話していました。乳児期から自分の気持ちに気づいてもらったり、自分の言葉に耳を傾けてもらったりする身近な大人の関わりが、よく考え、想像したことを自分の言葉で伝えようとしたり、相手の話を聞こうとする姿に繋がっています。今年も子どもたちの声に耳を傾けありのままの気持ちを表現できるような関わりを大切にしています。



5歳児がもち米を麺棒  
について作りました

ゆず湯ならぬみかん湯

懇談会



0歳児クラス

1歳児クラス

2歳児クラス

3歳児クラス

4歳児クラス



『 わくわく楽しいな 』

～乳児お楽しみ会～



0～2歳児クラスの子どもたちがホールに集まって、人形劇やパネルシアターなどを観て楽しいひと時を過ごしました。0歳児クラスの子どもたちは広い場所に圧倒されて保育士の傍から離れられずにいましたが、見慣れた保育士がモップ犬や棒人形を音楽に合わせて動かすのを見ると「あっ」と指をさして笑顔になり、舞台に近づいて人形に手を伸ばしています。1、2歳児の子どもたちも担任保育士の演じる「はらぺこあおむし」のパネルシアターに興味津々です。お話しの最後に蝶が大きな羽を広げる場面では、思わず「うわあ」と声を上げてお話しに引き込まれ、自然と笑みがこぼれていきました。最後は保育士がさんぽの曲を演奏すると子どもたちの身体も自然と動いて踊りだし、手作り楽器のマラカスを振ってみんなで大合奏になりました。

昼食は“はらぺこあおむし”に型どられたカレーでした。大喜びした子どもたちは、あおむしごはんが愛おしくていつまでも食べないでお皿の中を眺めているかわいい姿がありました。色々なことに興味関心が広がっていく中で、心を動かす経験を積み重ねながら感性を育むことを大切にていきたいと思います。





## ～ ともだち だーいすき ～



### こぐま組（3歳児）

#### 『 “一緒に”が楽しいね 』

積み木で何を作ろうかと考えていた子が、友達や保育士と作った積み木のブランコを思い出して作り始めました。以前一緒にブランコを作って遊んだ友達が「これも使ったよね」とフェルトのベルトを持ってきます。出来上がると二人で手を叩いて喜び、保育士にも知らせてくれました。木の人形を乗せて揺らすと、もう一人の子は園庭の縄ブランコ遊びで互いに背中を押し合った事を思い出し「押してあげるね」と人形の背中を押しながら、楽しかった経験を積み木の世界でも再現していました。

その傍では、人形を赤ちゃんにして「お熱が40度あるんです」と病院ごっこをしていました。お医者さん役の子が「風邪ですね」と注射を打ち、看護師役の保育士が赤ちゃん泣いていますねと話すと、お医者さん役の子は「シールをあげます」と人形の体を優しく撫でていました。「ありがとうございました」と病院を出たお母さん役の子は診察待ちの列に並び直し何度も友達とのやりとりを楽しんでいました。それそれが経験した病院という場所のイメージが友達と一緒にだったことが嬉しくて再現遊びが広がっています。身近な経験を言葉にしながら友達と“一緒に”とイメージを共有することが楽しいと感じています。一人ひとりの声を丁寧に聞きながら友達と遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにしていきます。



### そう組（4歳児）

#### 『 何にでもなれる楽しさ 』

猫の話で盛り上がり“猫にも誕生日がある”という事を知ると「私たちと同じだね、猫にも保育園があるのかな」と話していました。“誕生日が同じなら保育園もある”と思いついた子どもたちは友達と猫の保育園はどんな所かなと想像しながら積み木で保育園を作り、本物の猫の動きをイメージしながら人形遊びを楽しんでいました。また別の日は、お医者さんごっこをしている子に「救急隊になろうよ」と声を掛けた子がいました。声を掛けられた子は「救急隊ってなに？」と考えていると「怪我をした人を病院まで運ぶんだよ」と友達が一生懸命に話すのを聞いて“こういう人かな”とイメージし、椅子を組み合わせた救急車と一緒に乗り込み「どこが痛いですか」「道を開けてください」と救急隊の役を楽しんでいました。友達と遊ぶ中で、自分のやりたいことを話したり相手の話しを聞いたりしながら架空の世界の中で、自由に自分たちの想像する役になりきり楽しんでいます。



### らいおん組（5歳児）

#### 『 一緒に考えて、一緒にがんばろう 』

ドッヂボールを通して、逃げるのが得意、ボールをとるのが得意と、一人一人が自分のポジションで活躍し自信をつけています。ある時友達の姿を見て「ボールがとれないんだよね」という子がいました。すると「じゃあ特訓しよう」と数人の友達が声を掛け一緒にボールを投げる取るの練習が始まりました。少しずつ上手になる姿に「すごいね」と友達が褒めると嬉しくて更に練習に励み、実際の試合で、ボールを取るために腰を低くすると友達との練習を思い出して挑んでいました。一緒に練習した仲間からも応援してもらいボールが顔に当たってしまっても、手からすり落ちても絶対に取るといった強い思いが感じられました。

ボールを当てられたり、負けて悔しくて泣いてしまったりすることもありますが、友達からも「もう一回頑張ってみようよ」と励まされ「やっぱりドッヂボールは楽しい」「また、やりたい」と気持ちを切り替えています。どうしたら勝てるのか友達も一緒に、考え、挑戦して、負けた悔しさ、勝った喜びを仲間と共に味わうことを楽しんでいます。

